

♪ 2020年度 *poco a poco* ♪

Nr. 10 2020年9月28日(月) 文責:プファイル・辰巳

実りの秋

先週は中学部1年生の「ぶどう摘み」が実施されました。お天気にも恵まれ、何よりでした。秋はぶどうだけではなく、栗やりんごなどの果物、そしてかぼちゃなどの野菜の収穫期です。日本でお米の豊作を祝って秋祭りを取り行うように、ドイツでもこの時期は Erntedankfest (収穫祭) が行われます。今年はコロナの影響で盛大なお祭りはできないと思いますが、マルクトで色鮮やかな果物や野菜が出回ったり、Federweisser (発酵途中のワイン) が販売されたりするのは楽しみです。



ところで、季節が冬に向かって進むにつれて、気になるのはやはりコロナの感染状況です。夏季のように戸外で過ごすにはだんだん寒くなってきます。換気が必要と分かっているにもかかわらず授業というわけにもいかなくなるでしょう。それでは風邪をひいてしまいそうです。インフルエンザの予防もしなければいけません。これからの季節は、再度心を引き締めて、手洗いやうがいを励行し、一人一人がコロナ対策に真剣に取り組んでいきたいものです。

音楽こぼれ話 <大作曲家の家族たち ⑫

グスタフ・マーラーの妻 アルマ・マリア・マーラー

グスタフ・マーラーは、1879年にボヘミア王国(現在のチェコ)に生まれ、世紀末のウィーンや新大陸アメリカでも活躍した指揮者であり、作曲家でした。交響曲「巨人」「大地の歌」、歌曲集「亡き子をしのぶ歌」などは、マーラーの代表作です。

その妻として知られているのが「アルマ」です。1879年、ウィーンにて、父は画家、母は芸術家サロンの主宰者という家庭に生まれました。少女時代から美術、文学、哲

学、そして音楽と様々な分野で才能を発揮できる力量を持ち、しかも美貌の持ち主だったようで、多くの男性芸術家たちを魅了しました。作曲家ツェムリンスキー、画家のグスタフ・クリムト、オスカー・ココシュカなど有名な芸術家たちも、アルマの虜になりました。

アルマは21歳の時(1900年)、グスタフ・マーラーと知り合いましたが、19歳と年齢差も大きく、多額の借金を抱えていたり、人々に不遜な態度をとったりと、評判のよくなかったマーラーのことは、最初快く思いませんでした。それでも次第に、ウィーン楽壇の将来を担うべき大作曲家に惹かれるようになり、結婚した後は、楽譜の清書など夫の仕事を献身的に助けたそうです。マーラーの方はというと、アルマに献身的に尽くすことを当然のように求め、才気あふれるアルマ自身が作曲することは禁止するなど、威圧的な態度をとっていたといえます。夫婦仲が冷え始めた11年後、グスタフ・マーラーは50歳で世を去ります。アルマは若干31歳という若き未亡人。4年後の1915年、アルマはまず、マーラー存命中から噂のあった建築家グロピウスと再婚しました。

そのグロピウスとの関係も破綻した後、アルマが再々婚した相手は、11歳年下の小説家フランツ・ヴェルフェルでした(1919年)。彼はユダヤ人だったので、1938年、夫妻はナチス政権から逃れるため、まずフランスへ亡命します。そこからスペイン・ポルトガルと逃避行した後、アメリカ合衆国へと移住し、カリフォルニアに居を構えました。

第2次世界大戦終戦の年、フランツ・ヴェルフェルは世を去りましたが、アルマはたくましく戦後を生き抜きました。アメリカでは実母と同様に音楽サロンを主宰し、ストラヴィンスキー、シェーンベルグ、コルンゴルトなど、ヨーロッパからの亡命作曲家が、数多く彼女のサロンに出入りしたといえます。

最後はニューヨークに転居し、1964年に85歳の長寿を全うするまで、アルマはアメリカに留まり、故郷のウィーンに戻ることはほとんどありませんでした。しかし、亡くなった後、彼女の亡骸はウィーンのグリンツィング墓地に葬られたそうです。ちなみに、この墓地には、最初の夫グスタフ・マーラーも葬られています。二人のお墓は背を向けて合っているそうです。アルマは、第2の夫グロピウスとの間に生まれた娘マノンとともに眠っています。世紀末から2つの大戦を経験し、新大陸にまで渡ったアルマの波乱万丈の人生の一部をご紹介します。

